

プレ「知のオリンピック」オンライン大会発表予稿調査票 (Ver. 3.1)

【評価基準】①新規（奇）性、②論理性、③有効性、④持続可能性、⑤社会貢献性

【SDGsとの関連】当大会6つの競技分野毎に設定しているSDGsを意識して予稿をお考え下さい。

項目	発表予稿	
発表者氏名	高橋玉樹	
研究クラス名	日本武芸道の知®	
発表テーマ	子供食堂（スマイルダイニング）と被災地ボランティアによる青少年育成支援活動	
参加方式（右の候補から選んで下さい）	<input checked="" type="checkbox"/> メイン会場参加・午前中に発表できるようにして下さい	
<p>【序論】</p> <p>1. 現状に対する課題認識 （どのようなイノベーション等の課題に取り組むのか）</p>	<p>神奈川県大和市の「いちょう団地」は1980年代からインドシナ難民が移り住み、現在では10か国の国籍をもった外国人が居住している。現在、外国人の貧困化は深刻である。子供食堂（スマイルダイニング）は外国人籍の子供を中心に取り組んでいる。大学生を中心とした被災地（福島・熊本・神奈川）へのボランティア支援活動を通して、青少年に具体的な防災知識を教えるだけでなく、ボランティア活動によって、おもいやりの精神を育むための取り組みを試みている。農園も青少年が土を耕し、作物を育てることによって、食物への感謝の気持ちを育むための取り組みを試みている</p>	
<p>【背景・思い】</p> <p>2. イノベーション課題解決のための思い・背景 （何故、その思いに至ったのか）</p>	<p>「多文化共生」というスローガンはあっても、現実には外国人の貧困化が進行している。行政においては、これらの外国人の現状を配慮してくれるまでには至っていない。格差社会をどう是正するのか。またデジタル化された青少年たちが被災地へ赴き、ボランティア活動を行い、農作業にいそむような社会風土や地域文化を築くにはどうしたら良いか。</p>	
イノベーション課題解決方法の検証	<p>【価値等の設定】</p> <p>3. 新たな価値等の設定 （対象とする顧客や新しく生まれる価値等の設定）</p>	<p>大和市だけでなく、外国人の貧困問題は日本国内にたくさん見出せるはず。被災地（福島・熊本）へのボランティア活動を通して、青少年が広く日本社会の問題点を見出すことが重要。大和市から発信し、日本全国にボランティア文化が拡散されるよう、そのための震源地となりたい。</p>
	<p>【ニーズ】</p> <p>4. 価値等を高めるためのニーズの明確化 （対象とする価値・市場ニーズ（顕在・潜在など）の明確化）</p>	<p>日本は災害（台風・地震・津波）国家であり、今後もこの状態は継続する。災害に備える風土・文化を青少年から醸成していきたい。また自然災害だけでなく、日本は外国人を差別するという人的災害も目立つ。このためには外国人にも均等な教育の機会を与え、加えて日本の青少年の育成も急務である。青少年育成は日本社会の安定につながると信じる。</p>
	<p>【システム】</p> <p>5. ニーズ対応システムの設計等 （上記ニーズに対応する仕組みやシステムの設計等）</p>	<p>ダイニング華というレストランを有効活用し、いちょう団地に弁当を配布。 農園経営→レストラン（ダイニング華）→いちょう団地以上のような仕組みで取り組んでいる。</p>

<p>【結果・新たな事業価値】</p> <p>6. 当イノベーションにより生まれた結果や新たな事業価値 (上記新システムにより生まれた結果や新たな事業価値)</p>	<p>畑を提供してくれる人、文房具や衣類を提供してくれる人たちが出てきた。タウンニュースでの記事や、NHKの取材と放映により、地域住民たち認識が変化してきた。マスコミは子供食堂を記事として取り上げるべきである。</p>
<p>【結果の考察】</p> <p>7. 当イノベーション等の結果考察 (当イノベーション提案・研究により<u>生まれた効果</u>や<u>今後の課題</u>等に関する考察)</p>	<p>外国人国籍の子供は、言語の壁、家庭の貧困から教育資源が不足し、低学力に落とし込まれている。日本国籍に子供と比較して著しく低い進学率にとどまり、学歴、資格の不足により安定した就労が難しい状況である。これを改善するためには何が必要なのか。日本社会の安定のため、日本国籍の子供と同質な教育支援を受けるための支援活動を模索していきたい。また日本古来のおもいやり精神を養い培っていくため、日本武芸道の知からの学びや、農園での活動によって、食物への感謝の気持ちや、人への思いやりを育む教育を継続していきたい。</p>